

## 第3回 旭市学校のあり方検討委員会次第

日時 平成29年2月16日(木)  
午後6時30分～  
場所 海上公民館1階第1研修室

### 1. 開 会

### 2. 教育長あいさつ

### 3. 検討事項

#### (1) 近隣自治体の学校の適正規模の基準について

#### (2) 中学校の適正規模について

ア 学校の適正規模に関するアンケート結果について

イ 「公立小中義務教育学校定員配置基準」及び「中学校における免許外教科教授の状況」について

ウ 部活動の状況について

#### (3) 小学校の適正規模について

ア 学校の適正規模に関するアンケート結果について

### 4. その他

### 5. 閉 会

# 学校の適正規模に関するアンケート結果について

## <調査について>

### 1 調査の目的

学校の適正規模について、市内の教職員の意見を調査し、本委員会の議論の資料とする。

### 2 対象

旭市市内各小・中学校教職員

小学校 対象 266名 回答者 238名 回答率 89.5%

中学校 対象 144名 回答者 129名 回答率 89.6%

### 3 調査期間

平成29年2月2日から2月8日まで

### 4 調査方法

質問紙法（校務システムのアンケート機能を活用して）

## <小学校>

### I 調査結果より

#### 1 設問1について

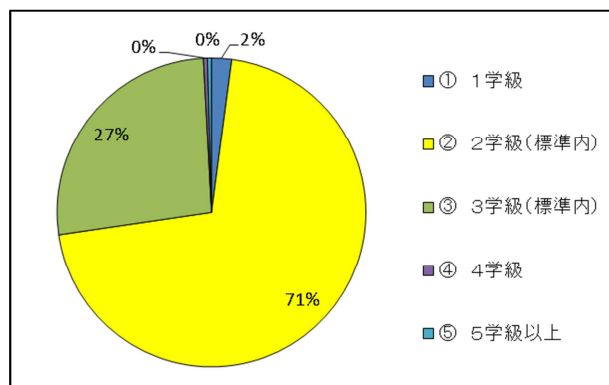
ア 内容：小学校における適正な学校規模とは、一学年何学級だと思えますか。

※学校教育法施行規則第41条

小・中学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。

イ 結果

回答内容	人数	割合
① 1学級	5人	2%
② 2学級（標準内）	168人	71%
③ 3学級（標準内）	63人	27%
④ 4学級	1人	0%
⑤ 5学級以上	1人	0%



#### 2 設問2について

ア 内容：設問1で①④⑤を選択した方は、その理由をお書きください。

イ 結果

##### ①を選択した理由

- ・中学校はともかく、小学校は地域の中にあり、子どもたちが徒歩で通学できる範囲にあって欲しい。適正規模の問題よりもそのことを優先したい。
- ・学級数が多いに越したことはないが、現在少子化が進んでいるため、1学年1学級でもよいのではないかと考えるから

##### ④⑤を選択した理由

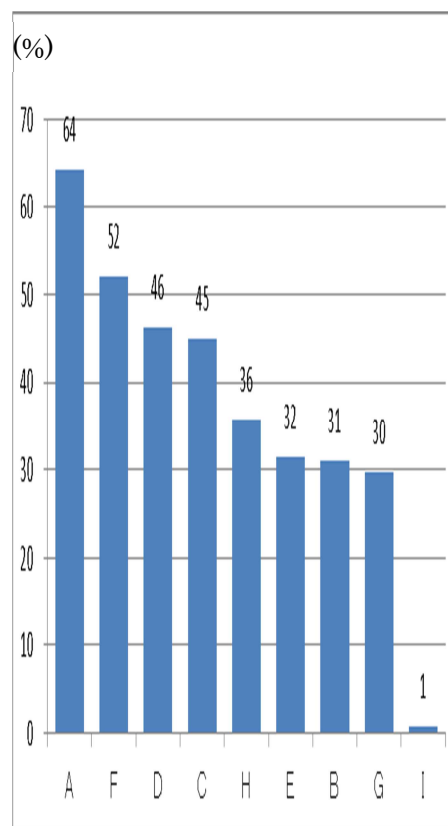
- ・回答なし

### 3 設問3について

ア 内容：設問1で②③を選択した方にお聞きします。選択した理由として、特に共感できるものを3つまで選んでください。

イ 結果（複数回答）

回答内容	人数	割合
A 様々な人間関係に配慮した学級編制ができるから	153人	64%
F 一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置が実現するから	124人	52%
D クラス替えを契機として、児童が意欲を新たにすることができるから	110人	46%
C 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができるから	107人	45%
H 教職員一人当たりの校務負担や行事に係る負担が分散されるから	85人	36%
E 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができるから	75人	32%
B 児童を多様な意見に触れさせることができるから	74人	31%
G TTや少人数指導、専科指導等の多様な指導方法をとることができるようになるから	71人	30%
I その他	2人	1%



### 4 設問4について

ア 内容：設問3で「その他」を選んだ方は、その内容をお書きください。（自由記述）

イ 結果

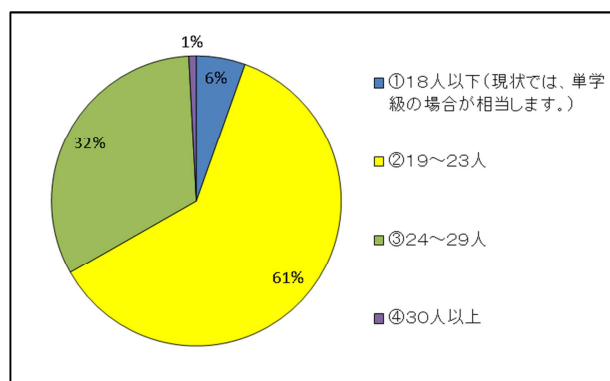
- ・行事の盛り上がり
- ・施設の維持管理費用を考えると、ある程度の児童数がある方が効率的だと思うから

### 5 設問5について

ア 内容：一学級の人数は、何人ぐらいが適正だと感じていますか。

イ 結果

回答内容	人数	割合
① 18人以下 (現状では、単学級の場合が相当)	13人	6%
② 19～23人	146人	61%
③ 24～29人	77人	32%
④ 30人以上	2人	1%



## 6 設問6について

ア 内容：設問5で選択した「一学級の人数」が適正だと思う理由をお書きください。  
(自由記述)

イ 結果

「18人以下」を選択した理由(10人)

- ・一人一人に目が行き届きやすくなるから
- ・きめ細やかな指導ができるから

「30人以上」を選択した理由(2人)

- ・多様な価値観や考え方に触れさせ、社会性を育てるためには、ある程度児童数が多い方がよいと思うから

「19～23人」「24人～29人」を選択した理由(122人)

- ・多すぎず、少なすぎず、教師の目が行き届く人数だと思うから
- ・児童の多様な人間関係が構築しやすい人数だと思うから
- ・一斉指導、グループ指導等、各種指導形態が可能であるから
- ・球技等でチーム編成をした場合、セルフジャッジまでさせるとすると、8人×3チーム位の人数を確保したいから
- ・ある程度の人数がいたほうが、競争心などが生まれやすくなると思うから
- ・現代の特別な支援が必要な子どもの割合を考えると、これ以上の人数では支障がある。今後支援が必要な児童が増えれば、さらに人数を減らす必要も生じる。
- ・多様な意見に触れさせるためには30人近い人数が必要だと思うから
- ・複数学級で、かつ担任が児童を掌握しやすい
- ・一クラス30人以上だと、事務処理にも時間を要し、担任の負担が大きいためから また、教室の大きさに対し、人数が多いことで児童の活動にも支障が出るから
- ・教員は大変だと思うが、ある程度の人数がいた方が社会に出た時のためになると思うから

## II 考察

### <考察>

小学校教職員の多くは、一学年2学級の学校規模を望んでいる。多かった理由は次の3つである。

- ① 様々な人間関係に配慮した学級編制ができるから
- ② 一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置が実現するから
- ③ クラス替えを契機として、児童が意欲を新たにすることができるから

単学級だと人間関係が固定化しやすく、一度問題が生じるとそれを解消することが難しいということもあり、定期的に学級替えができる複数学級を望んでいるようである。

また、ある程度の人数が確保されることにより、ベテランから若手まで幅広い年齢層

の人材が確保できること、また、様々な専門性をもった教員を確保できることも学校が活性化するために大切な要因だと考えていることがわかる。

一学級の適正な人数は、「19人から23人」を選んだ者が一番多かった。

現在の学級編制基準によれば、一学年の学級数の違いにより、一学級の人数の範囲は下表のようになる。

学級数	1～3年		4～6年	
	一学級の人数の範囲		一学級の人数の範囲	
	最少	最多	最少	最多
1	1	35	1	38
2	18	35	19	38
3	23	35	25	38
4	26	35	28	38

今回一番選択する者が多かった「19人から23人」は、一学年2学級になった場合の最低人数より少し多い規模となる。

選択の理由としては、様々なものが挙げられているが、教師の目が届きやすく、子ども達の人間関係の多様性が保障され、様々な活動を行うことができる規模が適正な規模だと教職員は認識している。

## <中学校>

### I 調査結果より

#### 1 設問1について

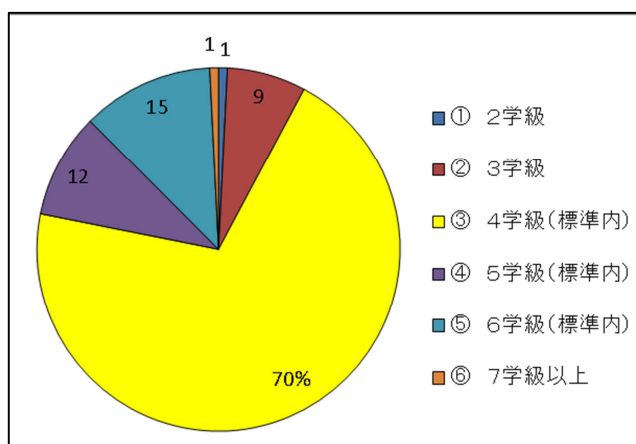
ア 内容：中学校における適正な学校規模とは、一学年何学級だと思いますか。

※学校教育法施行規則第41条

小・中学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。

イ 結果

回答内容	人数	割合
① 2学級	1人	1%
② 3学級	9人	7%
③ 4学級(標準内)	90人	70%
④ 5学級(標準内)	12人	9%
⑤ 6学級(標準内)	15人	12%
⑥ 7学級以上	1人	1%



#### 2 設問2について

ア 内容：設問1で①②⑥を選択した方は、その理由をお書きください。

イ 結果

①②を選択した理由

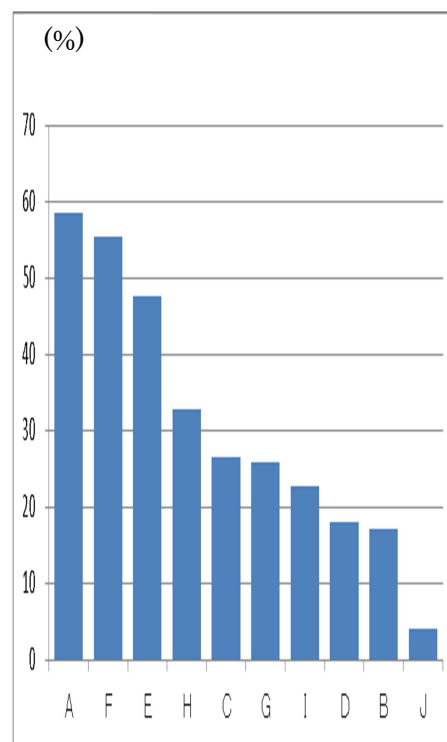
- ・生徒に目を配れる規模であり、クラス替えにも対応しやすい
- ・3学級なら、1人でその学年すべてのクラスを担当できるから。
- ・学年として動きやすく、学級間で競い合うのにも適当だから

### 3 設問3について

ア 内容：設問1で③④⑤を選択した方にお聞きします。選択した理由として、特に共感できるものを3つまで選んでください。

イ 結果（複数回答）

回答内容	人数	割合
A 様々な人間関係に配慮した学級編制ができるから	75人	59%
F 一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置（臨免指導等の解消）が実現するから	71人	55%
E 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができるから	61人	48%
H 教職員一人当たりの校務負担や行事に係る負担が分散されるから	42人	33%
C 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができるから	34人	27%
G TTや少人数指導等の多様な指導方法をとることができるようになるから	33人	26%
I 一定の教職員数が確保され、多様な部活動を行うことができるから	29人	23%
D クラス替えを契機として、児童が意欲を新たにすることができるから	23人	18%
B 生徒を多様な意見に触れさせることができるから	22人	17%
J その他	5人	4%



### 4 設問4について

ア 内容：設問3で「その他」を選んだ方は、その内容をお書きください。（自由記述）

イ 結果

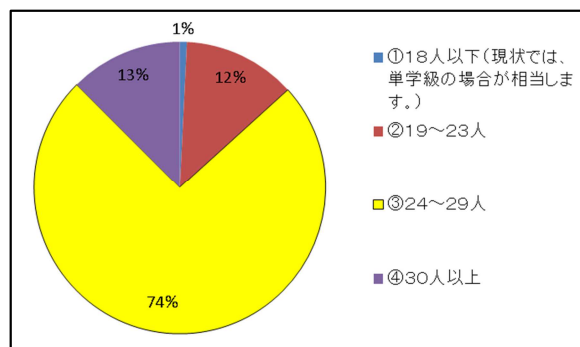
- ・体育の授業が2学級ずつで編制できるから
- ・学級数が少ない方が1学級の生徒数を少なくできる場合が多いから
- ・学年の全生徒を把握できる規模だから

### 5 設問5について

ア 内容：一学級の人数は、何人ぐらいが適正だと感じていますか。

イ 結果

回答内容	人数	割合
① 18人以下 (現状では、単学級の場合が相当)	1人	1%
② 19～23人	16人	12%
③ 24～29人	95人	74%
④ 30人以上	16人	13%



## 6 設問6について

ア 内容：設問5で選択した「一学級の人数」が適正だと思う理由をお書きください。  
(自由記述)

イ 結果

「19～23人」を選択した理由(10人)

- ・きめ細かな指導の実践が期待できるから
- ・個々を理解しやすくなるから
- ・クラスでは最低限の係や当番の活動ができる数だと思えるから
- ・個別支援の必要な生徒が増えてきているが職員数は減少しているため

「24～29人」を選択した理由(49人)

- ・一人一人の生徒に目が行き届く人数だから
- ・特別な支援を必要とする生徒が増えていると感じる。30人以上の学級だと授業の中では対応が難しい。
- ・行事等で、学級単位で動く際の必要最低限の人数だと思うから
- ・4～5人の生活班を編成しても5～6班できるのでグループ同士の意見の交流もしやすいし、普段の一斉授業の際でも、教科担任一人で目が届く人数だから
- ・家庭訪問や三者面談、通知表の所見など、担任としての負担がちょうどいいから(30人以上いると多い)
- ・あまり少なくとも合唱などの活動に支障が出るため、また多すぎても目が届かなくなる。
- ・個に応じたきめ細やかな指導が可能であり、子ども同士で高め合うことも可能である。
- ・生徒個々に目が配れる。生徒個々の特性が生かせ、学び合いができる。
- ・多様な保護者にもある程度対応できる職員数になるから
- ・語学学習の適正人数は15人～20人とされており、少しでもその人数に近い方が望ましいと考えるため

「30人以上」を選択した理由(9人)

- ・30人以上でも、上限は35人にしたい。メリットやデメリットは、その時々の生徒の気質や担任の力量によって違うと思う。活力を見出すためにはある程度の人数は必要と考える。
- ・クラスの係などや行事などの負担が分散されると思う
- ・子供同士の人間関係や教師が細かく見られる人数、教室の大きさ等を考えると30人が1番適正だと思うから

## Ⅱ 考察

### <考察>

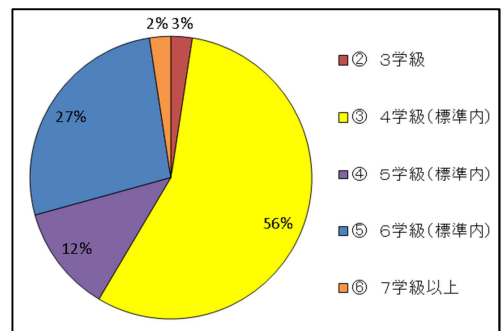
平成28年度の旭市の中学校の規模は次のようになっている。

学 年		第一中	第二中	海上中	飯岡中	干潟中
1年	学級数	2	8	4	2	2
	学級の人数(平均)	28.5	33.7	29.8	35.0	25.5
2年	学級数	2	7	3	3	2
	学級の人数(平均)	36	36.1	34.7	30.0	27
3年	学級数	3	8	3	3	2
	学級の人数(平均)	33.3	35.3	34.7	28.0	30.5

第二中を除く4校は、標準学級数に満たないことがわかる。このような状況の中、多くの教職員が、現状より1～2学級多い「一学年4学級程度」を適正だと感じている。

第二中は、標準学級数を超える大規模校である。第二中の教職員の感じ方は右のグラフのとおりである。

一学年4学級を適正と感じる者が一番多いものの、標準学級数内である5、6学級を適正だと感じている割合も比較的高く、他の学校にはない特徴が見られた。



標準学級数を選んだ教職員が特に共感できる理由は次の3つである。

- ① 様々な人間関係に配慮した学級編成ができるから
- ② 一定の教職員数が確保され、バランスがとれた教職員配置(臨免指導等の解消)が実現するから
- ③ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができるから

一学級の適正な人数は、「24人から29人」を選んだ者が一番多かった。小学校と違い、「30人以上」を適正だと考える教職員が一定数(13%)いることも特徴である。

現在の学級編制基準によれば、一学年の学級数の違いにより、一学級の人数の範囲は下表のようになる。

学級数	1年		2・3年	
	一学級の人数の範囲		一学級の人数の範囲	
	最少	最多	最少	最多
1	1	35	1	38
2	18	35	19	38
3	23	35	25	38
4	26	35	28	38
5	28	35	30	38

選択の理由としては、様々なものが挙げられているが、小学校と同様、教師の目が届きやすく、子ども達の人間関係の多様性が保障され、様々な活動を行うことができる規模が適正な規模だと教職員は認識している。



(2) 中学校の適正規模について

イ「公立小中義務教育学校定員配置基準」及び「中学校における免許外教科教授の状況」について

(ア) 公立小中義務教育学校定員配置基準について

教員の定員配置基準では、各学校に、校長、副校長、教頭のほか、学級編制基準に基づく標準学級に、1名の教員を配置し、さらに、下表のとおり、増置教員を配置することを原則としています。

表1 小学校

標準学級数	1～12学級	13～23学級	24～32学級	33学級以上
増置教員	1人	2人	3人	4人

表2 中学校

標準学級数	1、2学級	3、4学級	5～8学級	9学級
増置教員	3人	4人	5人	6人

標準学級数	10～15学級	16、17学級	18学級	19～21学級
増置教員	6人(+1)	7人(+1)	8人(+1)	9人(+1)

標準学級数	22、23学級	24～27学級	28学級	29学級
増置教員	10人(+1)	11人(+1)	12人(+1)	13人(+1)

標準学級数	30学級以上
増置教員	14人(+1)

※小・中学校とも、学校の実情に応じて、少人数指導などで、1～2名程度の加配がされることがあります。

小学校で、通常学級6学級、特別支援学級2学級の場合は、担任8人、増置教員1人の計9人となり、通常学級12学級、特別支援学級2学級の場合は、担任14人、増置教員2人の計16人の配置となります。

中学校で、通常学級6学級、特別支援学級2学級の場合、学級担任8人、増置教員5人の計13人となり、10学級以上で「生徒指導担当」が配置される(括弧内の数字)ため、通常学級8学級、特別支援学級2学級の場合は、学級担任10人、増置教員6人、生徒指導担当教員1人の計17人の配置となります。

小学校において各学年が単学級で、千葉県の学級編制の弾力的運用の上限(1年標準35人、2、3年弾力35人、4～6年38人)だった場合、児童数219人で教員数9人となります。そこに各学年に1人ずつ増えると225人ですが、各学年2学級となり、児童数6人の違いでも、教員数は16人になります。

中学校にも同様のことが言えますが、9学級になると教員数が15人になり、主要5教科の担当を2人ずつ確保することが可能となります。

(イ) 中学校における免許外教科教授の状況

市内の中学校において、教科担任不在、あるいは不足しているため、免許外の教員による授業を実施している学校は表3のようになっています。

表3 免許外授業の状況

教科	実施校数	週当たり実施時数	実施理由
保健体育	2校	週6時間	通常の授業を実施するにあたり必要な指導者数を確保するため。
国語科	1校	週8時間	通常の授業を実施するにあたり必要な指導者数を確保するため。
技術科	1校	週5時間	免許を所有する教員が不在のため。
家庭科	1校	週5時間	免許を所有する教員が不在のため。

いずれの教員も、専門教科の指導経験を踏まえて、必要な教授能力を有していることが認められ、県教育委員会から臨時免許状が交付されています。傾向としては、規模が小さくなると免許外の教員による授業が必要になる場合があります。

ウ 部活動の状況について

【運動部】

(平成28年5月 現在)

No.	学 校 名	第一中学校			第二中学校			海上中学校			飯岡中学校			千潟中学校							
		部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数								
	部活動名	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計					
1	陸上競技	1年	1	2	27	1年	21	5	61	1年	14	3	49	1年	4	2	15	1年	4	2	31
		2年	5	6		2年	14	2		2年	9	5		2年	4	2		2年	5	0	
		3年	8	5		3年	10	9		3年	4	14		3年	2	1		3年	6	14	
2	野 球	1年	11		24	1年	10		32	1年	6		23	1年	9		35	1年	5		16
		2年	3			2年	9			2年	8			2年	18			2年	4		
		3年	10			3年	13			3年	9			3年	8			3年	7		
3	剣 道	1年	2	0	8	1年	7	3	28	1年	6	2	21	1年	1	0	8	1年	4	2	21
		2年	0	2		2年	5	4		2年	0	3		2年	0	1		2年	4	9	
		3年	2	2		3年	4	5		3年	7	3		3年	3	3		3年	0	2	
4	バレーボール	1年	7	6	50	1年	23	10	67	1年	11	8	49	1年	7	2	28	1年		8	15
		2年	8	8		2年	2	8		2年	4	8		2年	7	4		2年		6	
		3年	14	7		3年	11	13		3年	7	11		3年	2	6		3年		1	
5	サッカー	1年	2		26	1年	13		32	/			1年	2		18	1年	14		34	
		2年	10			2年	8						2年	7			2年	12			
		3年	14			3年	11						3年	9			3年	8			
6	卓 球	1年	2	2	18	1年	18	8	73	1年	15	9	46	1年	11	2	36	/			
		2年	3	0		2年	9	19		2年	7	6		2年	4	6					
		3年	6	5		3年	9	10		3年	7	2		3年	6	7					
7	バスケット ボール	/			1年	8	9	54	1年	10	14	56	1年		6	17	1年		5	18	
					2年	13	1		2年	17	5		2年		5		2年		4		
					3年	17	6		3年	4	6		3年		6		3年		9		
8	ソフトボール	1年		1	19	1年		9	25	1年		6	21	/			/				
		2年		10		2年		8		2年		9									
		3年		8		3年		8		3年		6									
9	ソフトテニス	/			1年	13	10	73	/			1年	2	14	42	/					
					2年	18	10					2年	8	8							
					3年	15	7					3年	4	6							
10	体操競技	/			1年	3	3	34	/			/			/						
					2年	4	12											2年			
					3年	1	11											3年			
11	柔 道	/			1年	2	1	20	/			/			/						
					2年	4	3											2年			
					3年	9	1											3年			
12	バドミントン	/			1年	6	18	55	/			/			/						
					2年	6	10											2年			
					3年	4	11											3年			

※【第一中学校】 サッカーと剣道については平成29年度から入部募集はしない。

【文化部】

(平成28年5月 現在)

No.	学 校 名	第一中学校			第二中学校			海上中学校			飯岡中学校			千潟中学校			
		部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数	部 員 数		
	部活動名	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	
1	吹奏楽	1年	0	11	20	1年	3	23	68	1年	3	9	33	1年	0	3	23
		2年	0	6		2年	3	16		2年	2	11		2年	1	9	
		3年	0	3		3年	0	23		3年	0	8		3年	0	10	
2	美術	1年	0	5	21	1年	1	16	51	1年	3	6	30	1年	0	5	21
		2年	4	4		2年	1	16		2年	3	5		2年	2	6	
		3年	1	7		3年	5	12		3年	2	11		3年	2	6	
3	パソコン	/			23	1年	9	0	/	/			/	/			
		2年	7	4		2年	7	4		2年	7	4					
		3年	2	1		3年	2	1		3年	2	1					
4	ボランティア	/			18	1年	1	6	/	/			/	/			
		2年	1	8		2年	1	8		2年	1	8					
		3年	0	2		3年	0	2		3年	0	2					
5	演 劇	/			1	1年	0	0	/	/			/	/			
		2年	0	0		2年	0	0		2年	0	0					
		3年	0	1		3年	0	1		3年	0	1					
6	国際文化	/			/	/			/	1年	0	0	1	/			
		2年	0	0		2年	0	0		2年	0	0					
		3年	0	1		3年	0	1		3年	0	1					
7	総合学芸	/			/	/			/	/			/	1年	0	7	30
		2年	3	7		2年	3	7		2年	3	7					
		3年	5	8		3年	5	8		3年	5	8					

※【飯岡中学校】 国際文化部、平成29年度から入部募集はしない。